

文献

Follansbee, W.A. and V.J. Oliver, 1975: A comparison of infrared imagery and video picture

in the estimation of daily rainfall from satellite data, NOAA Tech. Memo. NESS 62.

日本写真学会, 1979: 写真光学の基礎, コロナ社.

 会員の広場

風力階級表について

宮崎 本 弘*

気象ハンドブック (1979, 朝倉書店) をめくっていると、風力階級表は「ビューフォート風力階級」(p. 219) と、わずか十数ページ後に「気象庁風力階級表 (ビューフォート風力階級表)」(p. 235) と2つの表が掲載されている。両表を比較するとちょっと気になることが見出される。「相当風速」欄である。例えば、風力1及び2のm/s欄で、前者の表は「0.3~1.5」及び「1.6~3.3」、後者の表は「0.3~1.6未満」及び「1.6~3.4未満」と風力階級の差は数値に対して、それぞれ区切り表示方式と「以上、未満」での継続表示方式となっている。

数多く刊行されている気象専門の、又は他の分野のハンドブック、便覧、年表はじめ出版書等において、この階級表は上記の例のように、両者相入り乱れ掲載されている。相当風速の値としての問題はまず特殊な場合を除いては生じないものと思われるが、いずれの階級表が公

式なものであるのか、はっきりさせておく必要があるのではないだろうか。

ちなみに、現在、適用されている気象庁の諸規程、技術基準となるべき刊行物から、その表示方法を分類してみると次のようになっている。

- A. 前者の表示としているもの
 - ア. 地上気象観測法 (1971), 表7-2
 - イ. 国際気象通報式 第6版 (1976), 第5章
- B. 後者の表示としているもの
 - ア. 船舶気象観測指針 (1975) 第3-1表
 - イ. 気象庁風力階級表等を定める件 (昭和28年・運輸省告示第58号)
 - ウ. 地方海上予報及び地方海上警報に関する発表形式 (昭和28年・運輸省告示第264号) 別表第1
 - エ. 部外発表天気図の記入型式について (昭和40年10月27日 気通第35号) 別表

* Motohiro Miyazaki, 神戸海洋気象台